

ユビキタス社会構築のためのネットワークに対する理論とその応用論文小特集の発行にあたって



ユビキタス社会構築のためのネットワークに対する理論とその応用
論文小特集編集委員会

委員長 和田 幸一

本特集号は、安定で安全なネットワーク（ユビキタス）社会を実現するために必要なP2P（Peer-to-Peer）、アドホックネットワーク、ワイヤレスネットワーク、モバイルネットワーク、センサネットワークに対して基礎となる理論と実際に関する論文を募集した。特に、ユビキタス社会構築のための中核となる概念である、自己組織化、自律性、ブローカレス、高信頼性を理論的または実験的に取り扱ったものを想定している。また、同時期に和文B分冊の特集「ユビキタスサービスを支えるネットワークング技術」が計画されているが、本特集はD分冊の特徴を生かした、計算機、システム、アルゴリズムに焦点を合わせたものになっており、通信に焦点を合わせたB分冊の特集とは一線を画している。

今回の特集に対して11件の投稿があり、分野別の論文投稿件数と採録件数は以下のとおりである。採録論文数は6件で理論3件、応用3件であった。

	投稿	採録	不採録
セキュリティ管理	4	2	2
オーバーレイネットワーク	4	2	2
アルゴリズム	2	2	0
モバイルコンピューティング	1	0	1

招待論文は、P2Pネットワークにおけるブローカレス

モデルの提唱者である星合隆成氏（NTTネットワークサービスシステム研究所）に、ブローカレスモデルの立場から、クラスタ型で実現するP2P技術の基本原理の解説と各方式の性能比較を執筆頂いた。星合氏は超多忙にもかかわらず、本招待論文のために、短い期間にP2Pの基本原理だけでなく、新たにシミュレータによる各方式の性能評価までして頂いた。この場を借りて御礼を申し上げたい。

今回の特集号では、編集委員や査読委員の先生方には、通常とは異なり、短い限られた期間で論文査読や幹事との打ち合わせなど多くをして頂き感謝している。特に、幹事の松前進先生（鳥取環境大）には、特集号の構成、論文全体の取りまとめをお願いし大変御苦労をかけた。また、学会ソサイエティ誌出版課の高木久恵さんにはあらゆることで助けて頂いた。これらの皆様には心より御礼申し上げたい。

和田 幸一（正員） 1978阪大・基礎工・情報卒。1983同大大学院博士後期課程了。同年同大・基礎工・助手。1984名工大・情報（現電気情報）講師。現在教授。工博。1987～1988ミネソタ大学、ウイスコンシン大学客員助教授。2000アーヘン工科大学客員教授。VLSIの複雑さ、並列分散アルゴリズム、グラフ理論の研究に従事。情報処理学会、ソフトウェア科学会、日本応用数理学会、ACM、IEEE、EATCS各会員。

ユビキタス社会構築のためのネットワークに対する理論とその応用論文小特集編集委員会

委員長	和田 幸一
幹事	松前 進
委員	渥美 幸雄・上野 修一・片山 喜章・河口 信夫
	木庭 淳・高橋 直久・藤田 聡・藤本 典幸
	増澤 利光・真鍋 義文